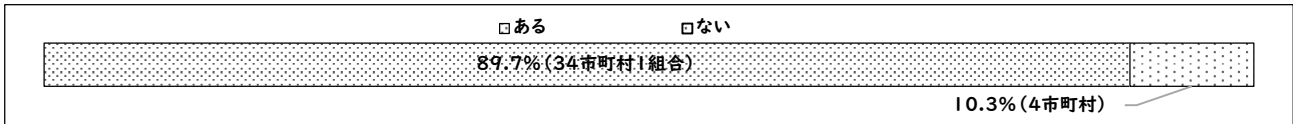


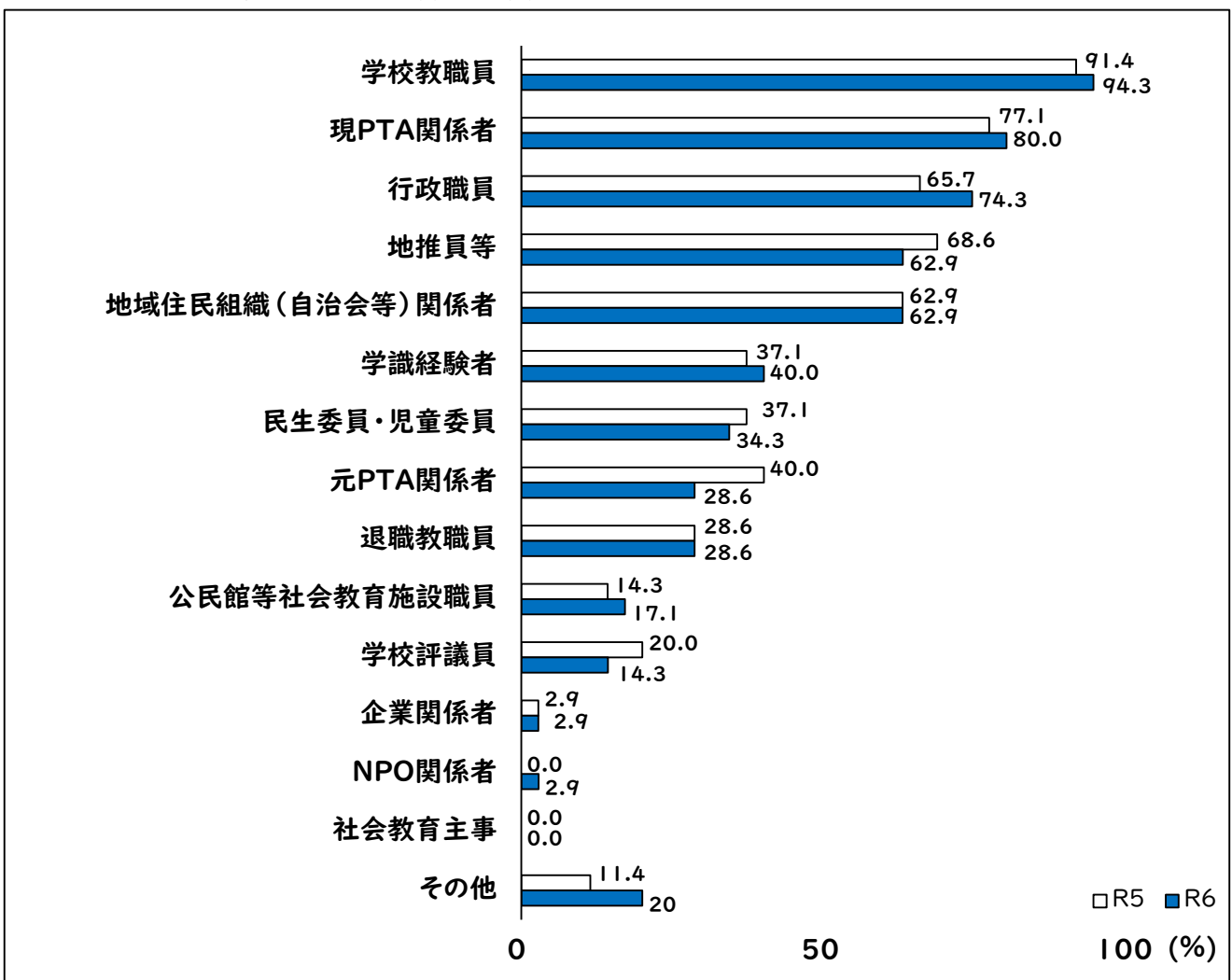
令和6年度「地域と共にある学校づくり」に関する実態調査結果  
市町村教育委員会について

「地域と共にある学校づくり」について

◎「地域学校協働活動」や「コミュニティ・スクール」の運営方法等を検討する会議や委員会等がありますか。

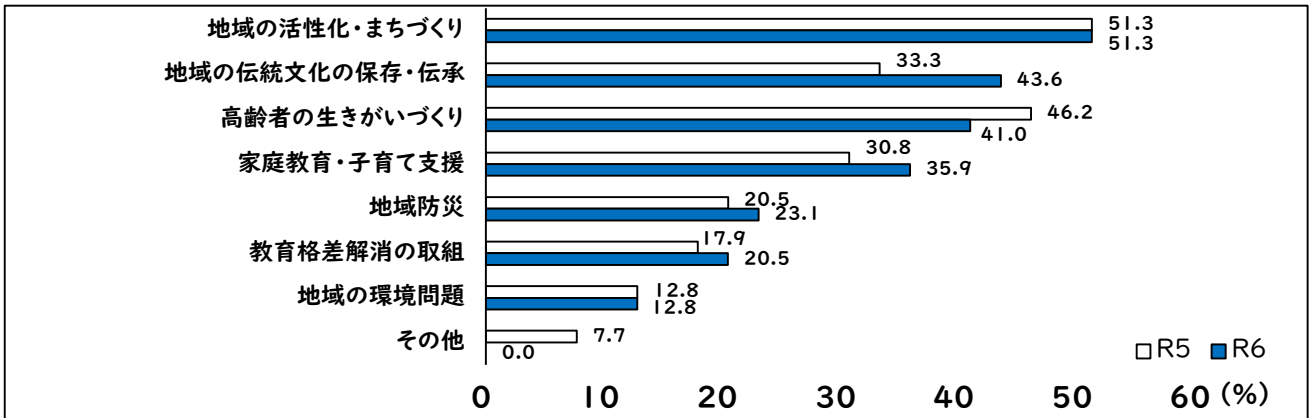


◎会議や委員会等の参加者の属性（複数回答）



○多くの市町村に「地域学校協働活動」や「コミュニティ・スクール」の運営方法等を検討する会議や委員会等が設けられています。その会議や委員会等には、様々な立場の方が参加しており、特に「学校教職員」が多く、「現PTA関係者」、「行政職員」、「地域学校協働活動推進員等」、「地域住民組織(自治会等)関係者」の割合が高くなっています。

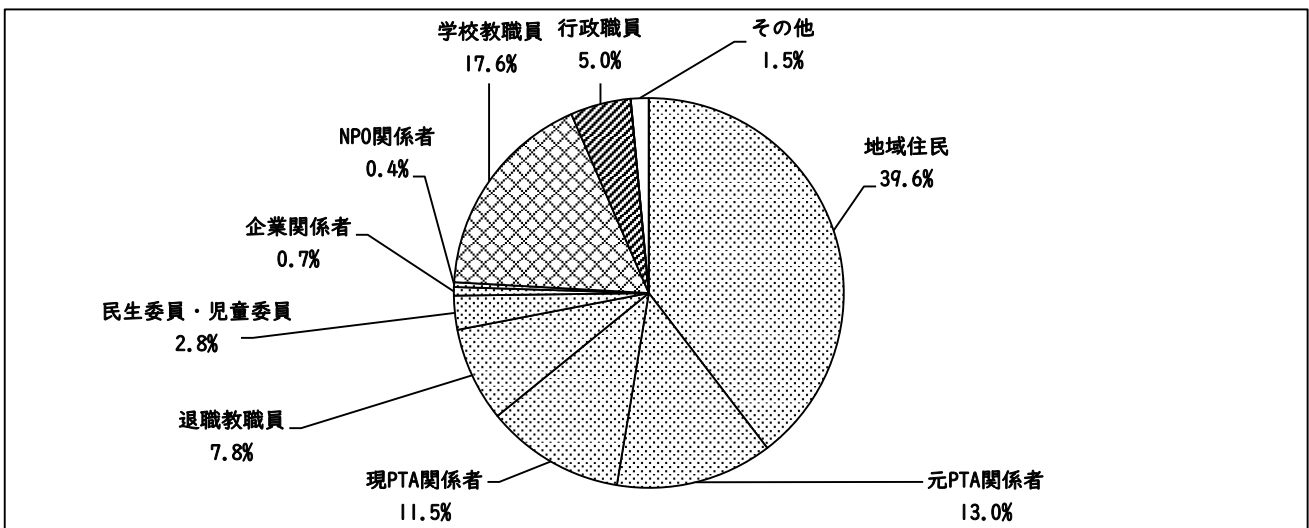
◎「地域と共にある学校づくり」における取組が「地域づくり」につながった事例（複数回答）



○「地域と共にある学校づくり」における取組が「地域づくり」につながった事例として、「地域の活性化・まちづくり」、「地域の伝統文化の保存・伝承」、「高齢者の生きがいづくり」の割合が高くなっています。

「地域学校協働活動」について

◎地推員等としての役割を担い活動する方の職種・役職等<460人中>



○地推員等としての役割を担い活動する方は地域人材が75.8%・336人（地域住民～NPO関係者）、学校教職員が17.6%・81人、行政職員等が5.0%・23人（行政職員と社会教育主事）となっています。（昨年度：地域人材76.7%・324人、学校教職員18.2%・77人、行政職員等4.3%・18人）

◎地推員等の役割を担い活動する方が地域人材ではない主な理由

- 地域住民の中で、地推員等としての役割を担うことができる人材の確保ができていないため。
- 学校との連携が重要な活動であるため、2名のうち1名が教職員であればスムーズな活動運営ができると考えているため。
- 将来的には地域人材に役割を担っていただきたいが、現段階では運営上行き詰まってしまう懸念があり、活動実績を積みながら地域人材への引き継ぎを行っているため。

◎ボランティア募集の際に行っている工夫

- 校区によって様々であるが、立て看板・募集案内のプリント配布や自治会の回覧板等
- 町広報誌でコミュニティ・スクールの活動紹介とボランティアの募集記事を掲載した。
- ホームページに「スクールサポートボランティア募集」のページを設けて広報し、登録用紙をダウンロードできるようにしている。また、各校園がボランティアを必要とする活動の一覧も掲載している。

◎地域学校協働活動推進員等の育成に関して行っていること

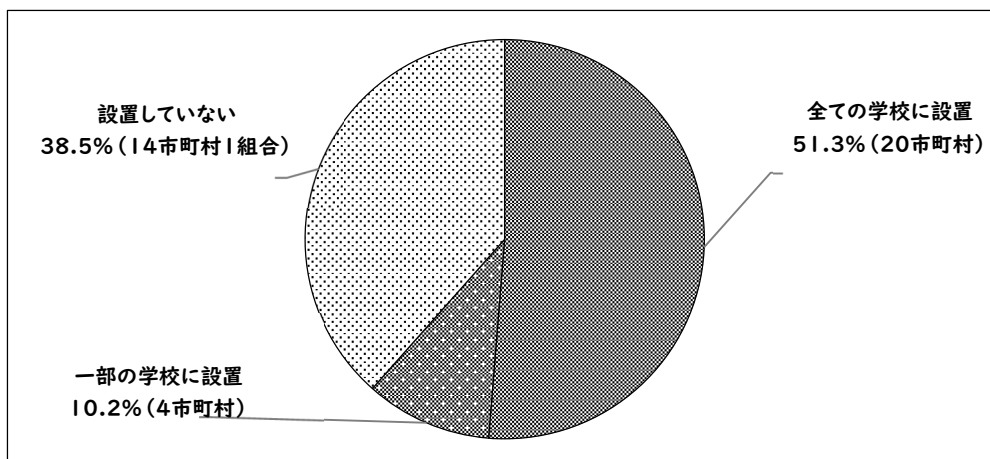
- 学校運営協議会委員と地域コーディネーターの合同の研修会を行うことで、地域の課題を共有し、市全体の課題や取組の成果を共有することで、両輪として活動できるように取り組んでいる。
- 月一回、地域コーディネーターとの打ち合わせ会により、情報共有をしている。
- 地推員・教委事務局間で会議を重ね、活動目的の再確認・活動計画・実施評価に基づき、改善が必要な事項を共有し、活動の質をあげている。

**地域学校協働活動を推進するためには、学校と地域をつなぐ役割を担う地推員等は欠かせない存在です。**

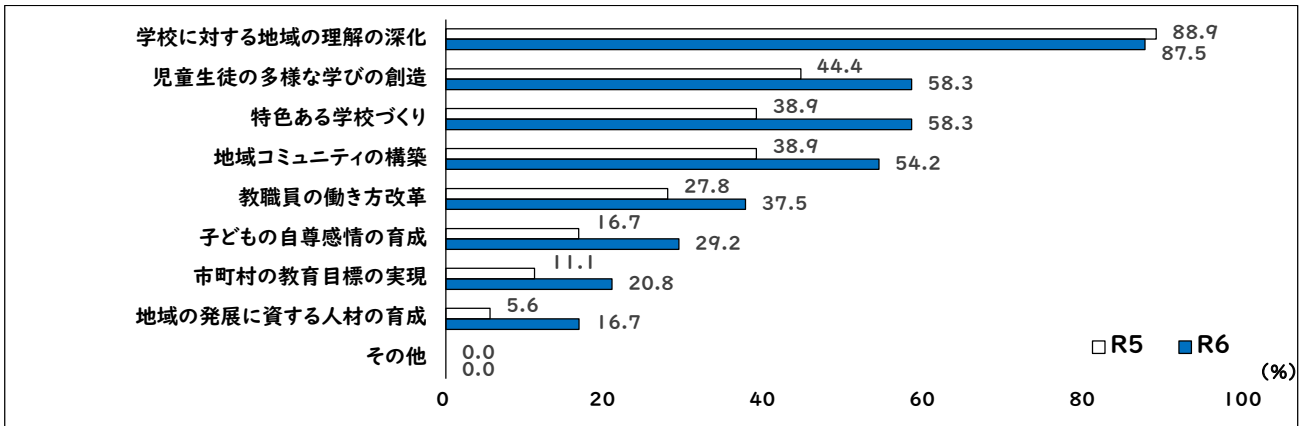
- 学校関係者と円滑にコミュニケーションがとれる地域住民による地推員等が、地域と学校の間を調整することは、地域と学校がパートナーとして協働するために有効です。
- 地推員等の確保・育成は、中長期的な視点に立って継続的に進めることが重要です。学校と地域のより良い関係づくりのため、域内における地推員等への研修や情報交換等、伴走支援のための仕組みづくりが必要です。
- 地域コーディネーターを地域学校協働活動推進員として教育委員会が委嘱することは、活動されている取組を後押しするだけでなく、活動されている方の意識向上にもつながります。

コミュニティ・スクールについて

◎コミュニティ・スクール（学校運営協議会）の設置状況

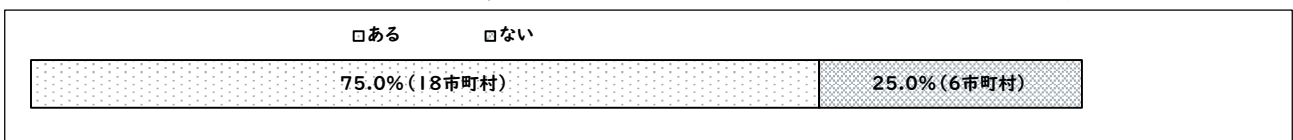


◎コミュニティ・スクールを導入することで得られた効果<市町村中>（複数回答）



○コミュニティ・スクールを導入することで「学校に対する地域の理解の深化」に効果を感じている市町村の割合が高くなっています。「児童生徒の多様な学びの創造」、「特色ある学校づくり」、「地域コミュニティの構築」の割合が大きく増加しています。

◎地域学校協働活動推進員等に学校運営協議会と地域学校協働本部の違いを伝える機会がありますか。



○学校運営協議会は「学校運営の改善」や「育てたい子ども像」等について協議を行う会議体です。地域学校協働本部は、地域住民等の様々な方々の参画を得て地域学校協働活動を行うための活動体です。学校運営協議会において設定・共有された目標等を反映した地域学校協働活動を、地域学校協働活動推進員等を橋渡し役として実施していくことが、大切になります。両組織の違いを域内の関係者に周知し、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進を図っていただくようお願いいたします。

◎コミュニティ・スクールと地域学校協働活動のそれぞれがもつ役割を機能させ、相乗的な効果を発揮するために各学校に行っている主な伴走支援

- コミュニティ協議会（地域学校協働本部）への参加や、学校運営協議会での支援や助言。
- 学校間の情報交換ができる場として交流会を開催。
- 学校教職員を対象とした研修会、地域への出前講座、地域人材の発掘支援。

◎コミュニティ・スクールの導入に際して不明な点や不安を感じる主な点

- 学校運営協議会の委員選出や地域への理解・啓発。
- 地教委としての伴走支援の方法。
- 学校教職員のコミュニティ・スクールへの理解や認知の必要性。
- 学校の負担が増えないかという不安。

## その他（市町村教育委員会の意見）

- 学校は地域の方と共にできる学校行事を計画し、実施している。子どもたちと共に活動して下さったり、見守り活動をして下さったり、地域の方のできる範囲で力添えをいただき、学校だけでは立ち行かないことも地域のご協力をいただくことで、活動に深みが増しています。よりよい活動にする為に管理職は、地域の方とのコミュニケーションを密にすることと、教職員の理解促進に尽力することが必須であるとともに課題でもあると感じています。
- 学校運営協議会がより一層効果的に進められ、幅広く活用していけるよう、学校教職員や学校運営協議会委員を対象とした研修の機会をより確保し、学校運営協議会のねらい等が浸透していくようにする必要があると考えています。
- 教職員の短期での異動により、地域住民との関係が希薄になってきているため、人材バンク情報の作成も検討していきたいと考えている。

### **地域との連携・協働により、対話と信頼に基づく学校運営を実現できるように、教育委員会による主体的・計画的な伴走支援をお願いします。**

- コミュニティ・スクールは「社会に開かれた教育課程」を実現するための有効なツールになります。学校運営協議会と地域学校協働本部のもつそれぞれの役割を機能させ、一体的に推進することで、相乗効果を発揮し、学校運営の改善や地域学校協働活動の充実や活性化につながります。各教育委員会におかれましては、今後も積極的にコミュニティ・スクールに対する関係者の理解を深めるための伴走支援をお願いします。
- コミュニティ・スクールを導入している市町村教育委員会においては、コミュニティ・スクールと地域学校協働活動を一体的に推進するために、教育委員会内の連携が欠かせません。学校や地域の実情を正確に把握し、今後とも学校・地域・行政がビジョンを共有し、連携をより密にして取組を進めていただきますようお願いいたします。また、学校運営協議会の参観、地域人材の発掘、地推員等への研修・情報交換会等、各学校と地域の実情に即した具体的な伴走支援をお願いします。
- コミュニティ・スクールをこれから導入する市町村教育委員会においては、これまでそれぞれの学校と地域が連携・協働することで紡いできた絆や歴史を大切にしながら、社会総掛かりで子どもたちを育むことができる体制を築いてください。コミュニティ・スクールと地域学校協働を一体的に推進することで、学校を地域の核として地域コミュニティを活性化し、子どもたちの様々な教育課題の解決や地域の教育力向上を図ることができます。コミュニティ・スクール導入の「努力義務」を「努力して置くべきもの」として捉えていただき、積極的な導入をお願いします。